ざつとむかしがあるけぢよんなあー

むかし、ひとりのおじいさんが、山に木を切りに行きました。たーんき、たーんきと、木を切っていると、どこからか、

「だれだ。そこで木を切るものは」と、声がしました。おじいさんは、

「やまやまのへっぴりじい」と答えました。すると、声は、

「そんなら、へひとつやってみれー」といいました。そこで、おじいさんは、

ニシキサラサラ ゴヨウノマツバラ トンピンパラリノプツ

と、おならをしました。すると、

「じょうずなへだなあ。もひとつ、やってくれ」といいました。おじいさんは、うんと力を入れて、

ニシキサラサラ ゴヨウノマツバラ トンピンパラリノプツ

と、やりました。

「うまい、うまい。もひとつやってくれ」

おじいさんは、ますます力をこめて、

ニシキサラサラ ゴヨウノマツバラ トンピンパラリノプツ

と、やりました。すると、声が、

「ほうびをやるが、重いつづらがいいか。軽いつづらがいいか」といいました。おじいさんは、

「わしはもう年寄りだから、軽いつづらをください」といって、軽いつづらをもらって、山を下りて行きました。

家に着いて、つづらを開けてみると、金銀さんご大判小判がいっぱい出て来ました。

となりの欲ばりじいさんが、この話を聞きつけました。欲ばりじいさんは、

「よし、それじゃあ、おれも行って、金銀さんご大判小判をもらってこよう」といって、山に木を切りに行きました。たーんき、たーんきと、木を切っていると、

「だれだ。そこで木を切るものは」と、声がしました。

「やまやまのへっぴりじい」

「そんなら、へひとつやってみれー」

となりのおじいさんは、

ニシキサラサラ ゴヨウノマツバラ トンピンパラリノビツ

と、おならをしました。何だか変な音でしたが、

「もひとつやってくれ」というので、

ニシキサラサラ ゴヨウノマツバラ トンピンパラリノビツ

またやってくれというので、

ニシキサラサラ ゴヨウノマツバラ トンピンパラリノビツ

とやりました。すると、声が、

「ほうびをやるが、重いつづらがいいか。軽いつづらがいいか」といいました。おじいさんは、

「おれは、重いつづらがよい」といって、重いつづらをもらって山を下りて行きました。

家に着いて、つづらを開けて見ると、化け物が、ぞろぞろ出て来て、となりのおじいさんは、こしをぬかしてしまいました。

だから、人のまねはするもんじゃありません。

トンピンパラリノプー

原話…『昔話研究第2巻第12号』「平鹿郡昔話」寺田伝一郎／民間伝承の会

再話…村上郁